

一般社団法人 日本生態学会  
2022年度 第3回通常理事会

1. 日時：2022年12月17日（土）13:00～17:43
2. 場所：ビジョンセンター田町203室およびオンライン会議（Zoom）
3. 出席者：
  - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）  
（理事）宮下直、北島薫、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵、久米篤、木村恵、村岡裕由、吉田丈人、鏡味麻衣子、佐竹暁子、日浦勉、酒井章子、工藤岳、小泉逸郎、鈴木牧、中野伸一、和田直也
  - ・監事：永松大、瀧本岳
  - ・オブザーバー：鈴木準一郎、永光輝義、小池文人、細将貴、半場祐子、立田晴記、赤坂宗光、辻かおる、久保田康裕（一部参加）
  - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数10名を超える18名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い宮下直会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、宮下直会長、永松大監事、瀧本岳監事とし、議事録作成者は大塚俊之専務理事が担当することとした。

## 報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
  - ・資料1に基づいて大塚専務理事より令和5年度科研費を応募したこと、新サーバ移転作業を行ったこと、イギリス生態学会ブース出展機器代を支払ったことなど庶務11件の報告と、会計10件の報告があった。
  - ・資料1に基づいて本庄会計担当理事より2022年会計状況について、収入は概ね予算通りであること、支出は大会がオンライン開催となったため大きな黒字になったこと、INTECOL会費の支払いがなくなったこと、約1/3の会員が会費をカード決済にて支払ったこと等の報告があった。
2. Ecological Research 編集委員会報告
  - ・資料2に基づいて鈴木編集長より Copy Editor の就任・退任があったこと、ER論文賞の審査が進んでいること、年間ページ数・投稿数が減少していること、大会でのフォーラム開催予定、Idea Paper についての報告があった。
  - ・特集企画の提案への協力依頼があった。

### 3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より発行状況と編集状況の報告があった。

### 4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より刊行状況、編集状況、来年より作業補助者を雇用すること、オンライン出版状況の報告があった。

### 5. 3 英文誌出版状況報告

- ・ 資料 5 に基づいて久米出版担当理事より 3 英文誌について順調に編集運営が行われていること、海外でのプロモーション活動としてイギリス生態学会で 3 英文誌ブースを行ったこと、科研費について国際情報発信強化 B と OA 刊行支援に応募したことが報告された。

### 6. 大会準備状況報告 (ESJ70)

- ・ 資料 6 に基づいて細大会企画委員長より ESJ70 準備状況について、申込状況でシンポジウムとポスター発表が減っていること、これまでとの変更点として口頭発表で講演動画の事前アップロードやポスター発表のグラフィカルアブストラクトの採用、ポスター発表の賞新設の報告があった。
- ・ 今後の検討事項として部会の再編や業務委託について提案があり、短期的なものは次回大会にて実施を検討し長期的なものは将来像検討タスクフォースにて検討していくことになった。

### 7. 各種委員会報告

#### <キャリア支援専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて木村理事・鈴木理事より第 20 回男女共同参画学協会シンポジウム参加、生態学会誌への特集記事の公開、ESJ70 準備状況についての報告があった。

#### <男女共同参画学協会連絡会タスクフォース>

- ・ 資料 7 に基づいて半場委員長より定時総会が行われたこと、連絡会幹事学会を引き継いだことの報告があった。

#### <将来計画専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて佐竹理事・小泉理事よりメンター制の状況、ESJ70 準備状況、アンケート結果について報告があった。

#### <自然保護専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて和田理事より再生可能エネルギー事業対策作業部会の部会

員選出について、ESJ70 フォーラム企画について、奄美大島嘉徳海岸に関する要望書提出後の対応について報告があった。

#### <情報交流支援専門委員会>

- ・ 資料 7 に基づいて村岡理事より Jeconet の管理運営状況について報告があった。

#### 8. 学術会議報告

- ・ 北島副会長より 12/8 に総会が開催されたこと、3 年毎の会員・連携会員の交代があること、12/12 に生態科学分科会が開催され未来の学術振興構想が京大生態研センターから出ていることの報告があった。

#### 9. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 8 に基づいて鏡味理事より応募が少ない賞への応募促進について提議があり、宮地賞と鈴木賞の同時応募を可とするなどの意見があった。学会賞選考委員会でも応募促進について検討することになった。

#### 10. INTECOL 報告

- ・ 資料 9 に基づいて村岡理事より INTECOL の体制についてジュネーブ大会期間中の Board 会議および General Assembly で協議された内容の報告があった。

#### 11. 生物科学学会連合報告

- ・ 資料 10 に基づいて宮下会長より次期代表、高校生物用語、公開シンポジウム、未来の学術振興構想、国立沖縄自然史博物館の設立活動について報告があった。

#### 12. その他

- ・ 中野理事より EAFES について 2023 年 7-8 月に韓国で開催予定との報告があった。
- ・ 中野理事より生態学琵琶湖賞について 11 月末で締切り、国内外から 10 名前後の応募があったと報告があった
- ・ 資料 11 に基づいて本庄理事より 2023 年 1 月に現在就業しているパートタイム昇給を行うこと、学会のパートタイム時給基準を厚生労働省の最低賃金上昇にあわせて改訂したことの報告があった。
- ・ 工藤理事より自然史学会連合について、連合より提案されていた博物館法への要望書は意見集約ができずに断念したとの報告があった。

## 審議事項

### 第1号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料12に基づいて生態学会功労賞への湯本貴和氏推薦が全会一致で承認された。

### 第2号議案 委員の承認

- ・ 資料3に基づいて永光生態誌編集長より任期3年で新編集長と編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料7に基づいて村岡理事より新情報交流支援委員の提案があり全会一致で承認された。

### 第3号議案 旅費規則改訂について

- ・ 資料13に基づいて佐々木理事より旅費規則に自家用車利用の場合の文言を加える改訂の説明があり提案された
- ・ 変更案で「ガソリン代」と記載されている文言についてはEV車の使用も考えられるため文言を執行部で再検討すること、自家用車利用希望の場合は学会事務局に事前連絡することを付記することを含めて、旅費規則の改訂が全会一致で承認された。

### 第4号議案 ANEMONE コンソーシアムについて

- ・ 資料14に基づいて村岡理事より説明があり、生態学会がANEMONE コンソーシアムの運営委員会構成メンバーになること、運営委員として村岡理事を登録することが全会一致で承認された。

### 第5号議案 賞新設について

- ・ 資料15に基づいて新賞についてオブザーバーの久保田康裕氏より説明があり審議をした。
- ・ 理事より業務として行っている研究の扱い、賞のネーミング、賞金受け入れ時の扱い等意見があり、継続審議となった。

### 第6号議案 3英文誌の今後の出版体制及びTF 答申への対応（OA 出版助成）について

- ・ 資料16に基づいて本庄理事・久米理事より説明があり審議した。
- ・ 学会からの出版を維持するためにはOA論文を増やす必要があり、OA化が進んでいく状況から生態学会でもいち早く着手する必要があるとの意見があった。

- ・ 2023年の学会予算にOA出版補助費として700-900万円を計上することが全会一致で承認された。
- ・ 過去に掲載された論文についてはOA助成の対象としない。

第7号議案 Ecological Research 投稿規定の改訂について

- ・ 資料2に基づいて鈴木ER編集長より投稿規定改訂の提案があり全会一致で承認された。

閉会：以上の議事を終え、17時43分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2022年12月17日

会 長 : 宮下 直 ⑩

監 事 : 永松 大 ⑩

瀧本 岳 ⑩